

建築物の金具や重量物運搬用つり具などの設計・製造を手掛けるオーザック(福山市)のテレワークの取り組み事例を紹介します。実施状況やメリットなどを専務取締役の岡崎瑞穂さんに聞きました。

## 株式会社オーザック(福山市)

# 転居後もテレワークで雇用継続



専務取締役  
岡崎 瑞穂さん

### —どんなテレワークを取り入れていますか。

生産管理部に2017年11月から自宅でテレワークを実施している従業員がいます。生産管理部の業務は、営業部の受注に基づく加工指示書の作成、仕入れ先への材料の発注・調整、製造から納品までの進捗管理です。

顧客対応や見積書の作成が主な業務の営業部でも、20年10月からトライアルでテレワークを取り入れています。営業エリアが全国に及ぶので、WEB会議システムを使ったオンラインでの商談・打ち合わせをしています。画面越しでしか製品の確認ができないという課題もありますが、図面をあらかじめ送るなどし、訪問時と同じようにきめ細かな説明ができるよう、心掛けています。

### —テレワークを実施するためにIT環境をどのように整備しましたか。

インターネット上に仮想の専用回線をつくり、特定の人だけが利用できるネットワークVPN(仮想私設網)を設け、自宅から会社のネットワークにアクセスすることで、遠隔での業務を可能にしています。VPNサーバーを経由することで通信内容が暗号化され、情報漏えいのリスクを抑えることができるため、この方法を選びました。

在宅勤務者にはデスクトップパソコン、追加モニター、マイク内蔵式ウェブカメラ、スマートフォンを貸し出しています。全従業員がパソコンを通じてコミュニケーションが取れるよう、アプリのチャットやビデオ会議の機能を活用しています。在宅勤務者の勤怠はチャットで管理。出退勤の時間を報告させ、それを総務部がタイムカードに記録しています。

### —メリットやデメリットを教えてください。

結婚を機に退職を考えていた従業員に在宅勤務を提案したことで、継続して働いてもらうことができました。入社以来積み上げてきた従業員のキャリアが無駄にならず、今なおステップアップを続けてくれていることが何よりのメリットです。

一方、在宅勤務者は目の届かない場所で仕事をしているので、状況を把握するのが難しいというデメリットがあります。その対策として、メールアプリにあるカレンダー機能に仕事の状況を入力してもらい、部署全体で共有するようにしています。

### —テレワーク実施に当たり、工夫している点は？

事務所勤務者と在宅勤務者で情報の格差が生まれないう、毎朝9時に在宅勤務者を含めたミーティングをしています。



在宅勤務者を含めたビデオ会議の様子

さらに、事務所に入ってくる情報はチャットで共有。このほか、事務所にカメラ(スマートフォン)を設置し、在宅勤務者が社内の様子を見られるように工夫しています。

### —今後の取り組みは？

全従業員がテレワークへの認識や理解を深めるために、アンケートなどで意見の吸い上げを継続的に行っていきます。「製造業だからテレワークは難しい」と決めつけるのではなく、例えば工場にある金属加工機の自動化など製造部門のデジタルトランスフォーメーション(DX)も検討しながら、全従業員の働く選択肢が増えるよう、できるところから取り組んでいきます。

#### 現場の声

生産管理部  
藤田 友里恵さん



### 工程書類 専用ソフトで作成

2017年11月から広島市の自宅でテレワークを続けています。結婚を機に退職を考えていましたが、会社からテレワークを提案していただき、仕事を続けることができています。

主な業務は、製品完成までの工程書類の作成です。自宅にいても、会社と同じ環境で生産管理システムを使って仕事ができます。また、事務所の映像を常時モニターに映しています。社内の様子がうかがえるので、担当者とのやり取りもスムーズです。